シャンティ山口 ニュースレター　第76号

発行：2010年4月16日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口　代表 角　直 彦
連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田717　佐伯昭夫　電話/Fax 083-927-4083
ホームページアドレス：http://www.shanti-yamaguchi.com/

平成22年度「地球環境基金」新規事業助成金交付内定

「地球環境基金」

「新事業」今年も助っ人「今井記念海外協力基金」の助成により新年度事業が円滑に実施され、現地の要望に添うことができることとなりました。
現地の皆さんに代わりまして心より感謝とお礼を申し上げます。

本事業は、特に開発途上国のトイレに起因する伝染病等で子供を中心として多くの死者が出ていることや燃料消費・農業生産・安全な飲料水問題など、生活に欠かせない自然サイクルの中で「発生源で元を絶つ」一連の循環をモデル化しシステムとして開発したものです。（エコトイレ「人糞」＋メタンガス＋野菜栽培＋堆肥＋水のリサイクル＝無放流）循環型社会の形成に於いて不可欠な事業でもあります。

独立行政法人環境再生保全機構　「地球環境基金」助成による継続実施で現地では、大変好評で村の人たちの手で完成させた自信と誇りは、他の村への波及効果と環境衛生に対する意識・知識の向上に繋がり、それぞれの責任のもとに使用することで清掃も行き届き、きれいに管理され協働の成果が現れています。

平成１９年度から２１年度までの３年間実施してきた開発実践の成果を滞ることなく継続して活用し、持続可能な農業の一環として農村開発事業をスタートすることとなりました。

活動名：タイ国・北タイ地域「焼き畑の大地を森林に」アグロフォレストリーと農村開発

（対象地域の状況・活動を行うこととなった背景）

１９７０年代からタイ政府の強制定住化により、山を追われ平地へと移された。当初は、平地での耕作や生活に慣れず、また、タイ人との壁と偏見差別も多く、耐え抜いたが、時の流れと寛容なタイ社会が受け入れてくれた。

その一方、さまざまな事情から定住化のチャンス逸し山に残された人たちは、（各所に１０%程度残留。）依然として従来の暮らしを続けてきたが、子どもの教育やタイ社会との共存から現金収入が必要となり、これまでの農法から商業ベースの流れに沿った流通農法に変更せざるを得なくなった。

地域では、１９９３年代からトウモロコシやショウガの大量生産が始まった。地理的に不利な山の村では、雨期になると悪路のため収穫物の運搬ができず、運搬可能な時期に合わせて作物の植え付けを遅らせるなどして、かろうじて現金収入を得ている。

一年を通じ数回収穫できる作物も条件の悪い地域では１回だけで、ストックの利かない収穫物は、栽培できず他の地区に比べ極めて不利となっている。このようなことから価格も安く貧困に拍車をかけ生活苦に追われている。このような境遇の村は、ラオス国境沿いに数十か所が点在する。

３年前ごろから北タイ地域では、遺伝子組み換えトウモロコシの種子が急速に出回り化学肥料とセットでの販売が始まったが、高価でハンディーのある山の村では、採算が取れない。

また、従来のトウモロコシは、流通から外れ業者も購入しなくなった。

遺伝子組み換えトウモロコシは、近年バイオ燃料として需要が多く初年度価格は高騰し、次年度から世界各地で大量生産が始まったため、価格は下落したものの大量出荷であれば、採算に見合うためと農地拡張のため、こぞって森林を違法伐採している。北タイの山林は、一面トウモロコシ畑に化しその早さは、年々拡大を見せている。

このような現状から北タイの森林は、急速に消滅しており水源を失うとともに、洪水災害が頻繁に発生している。

この流通生産に依存し始めた地域の農民は、生活苦に追われ農地を抵当に借金して生計を立てている農家も少なくない。

１９６０年代ラオス内戦から逃れ、急峻過酷な山林を開墾し、焼き畑農地で安住の地として 50 年自然とともに暮らしてきたモン族の村。

当時の生活は、自給自足の陸稲と野菜で家族が生きるだけの質素な生活で老人や、子どもたちは、栄養不足で病気に対する抵抗力もなく伝染病など蔓延すれば悲惨な状況となっていた。

医者や薬にはありつけず、唯一シャーマンによる祈祷と漢方薬での治療が精いっぱいだった。教育はもちろんのこと勉学の機会は全くなかった。

このような状況の中、生きる糧は、先祖から教わり伝えている焼き畑による自然農法である。

２～３年間収穫すれば３年間以上は、休作し貴重な土地を大切に繰り返し保全し、自然の恵みを得て生きていくため、決して森林の乱伐や必要以上の動物の捕獲はしない。

これが彼らの生き残るための術であり文化である。

今回案件のホイプム村は、外部から取り残された過疎の村で、２００９年地球環境基金の助成を受け、住民の協働による保育園のエコトイレの設置と、保健衛生セミナーなどに参加した。

村人の団結心は強く当該事業に当たっては、村人全員協働で従事し、生活に対するコミュニティーと仕事熱心には特有なものがありその努力が伺える。

近年、生活苦から流通農業を始めたが、ハンディーのあるこの村での持続は、不可能なことが推測され、この地で生き残るためには、農業の在り方を変えざるを得ない事態に迫られている。

まもなく、子どもの教育も断念せざるを得なくなる現実と、農法の完全転換までは、苦しい状況となるが、今、頑張らなくては、子どもたちの時代も未来もない、この機を逸せば、村の壊滅も心配され、資本家による土地の買収や違法な森林伐採は、エスカレートし、さらなる森林の消滅が懸念される。また、近年の地球環境の保持・再生が叫ばれている現状に反するとともに、今後の人の暮らしに多大なダメージを与え、広範囲にわたる多くの住民が、さら成る生活苦に見舞われる。

貧困ゆえに自力で立ちあがることは、容易でないが、村人こぞって農法の転換を決意した。

２００９年１２月、村長を先頭に住民総意の決定がされ、当会への相談と協力の依頼がなされた。

住民の総意は、親から引き継いだ伝統の土地を生かし、従来のお金のかからない民族の伝統文化を生かし

た持続可能な農法で完全自立できる農業を続けていきたい。

このことから**「焼き畑の大地を森林に」アグロフォレストリーと農村開発**を目標に事業を展開することとし、当面生活基盤作りとして生物多様性を駆使した「自然循環式多目的バイオトイレ」による集落排水設備の設置に併せ、保健衛生・生活環境学習とアグロフォレストリーへの転換による環境保全型農業の推進と生活向上のための支援活動を実施する。

終了後の展望

主目的のアグロフォレストリーは、本格稼働するには、５，６年必要であるが、基盤づくりと、住民総意の意欲が、実を結ぶことに繋がる。その後は、住民こぞって培った知恵を出し収穫・加工・市場展開をいかにするか村人の結集に期待し見守り続けたい。栽培した収穫物は、オーガニック栽培製品としての付加価値も上がる。農業だけでなく生活全般にわたっての総ぐるみ開発のため、士気の高揚と共にコミュニティーがもたらす模範モデルとして地域に広がることを期待する。また、北タイの焼き畑の大地は、かつて存在していた森林で埋め尽くされ、やがて自然と共に暮らしてきた豊かな民とともに蘇えると確信する。

参考写真　（アグロフォレストリーと農村開発）

森林の伐採と開発状況

北タイの山間部

この後にトウモロコシの植え付けを行う

トウモロコシ畑

山の農地の状況

村人の共同作業

一面のトウモロコシ畑

遺伝子組み換えのトウモロコシと農薬ずけのキャベツの収穫

自給の畑の作業

土石流の被害にあった農地

ホイプム村の子どもたち（保育所）

ホイプム村の一部（手前は、マンゴーの果樹）

悪路の唯一の道

―活動募金にご協力をお願いします。―

2010.4.16 saeki